

日本銀行金融研究所第13回貨幣史研究会東日本部会 2003/9/30(火) 於: 日本銀行  
鍛代敏雄氏報告「戦国期の「境内都市」と物流—石清水八幡宮寺をめぐる—」に対する  
コメント

コメンテーター: 田中浩司(函館大学)

【鍛代氏の報告の構成】

対象時期: 戦国・織豊期(近世への移行期)

分析対象: 石清水八幡宮寺とその「境内都市」

分析視角1: 他の権門との関係(朝廷、室町幕府、統一政権など) —まとめ①②

分析視角2: 「境内都市」の構造変化—まとめ③

α—身分階層・空間の構成変化

β—宗教領主権の構造と変容

分析視角3: 「境内都市」各層の機能と連帯—まとめ④

分析視角4: 「境内都市」のアジール性と暴力—まとめ⑤

分析視角5: 「境内都市」と物流—まとめ⑥

—宗教都市の政治社会経済史

【論点整理・若干の疑問点】

1: 他の権門との関係(朝廷、室町幕府、統一政権など) —まとめ①②「戦国期の権門  
寺社・石清水八幡宮寺と朝廷・幕府」「統一政権と石清水八幡宮寺」

権門寺社・石清水八幡宮の社務職の補任形態

武家との婚姻・儀礼上の関係

統一政権との関係の締結

祈祷の勤仕—天下の祈祷所の指定、寄進・造営の興行=宗教的な權威の維持

朱印地の確定—宮寺と八郷の分離

(コメント)

・武家との婚姻関係は、足利義満期からすでにみられるが、関係の変遷、戦国期の様  
相との相違は?

・寺社が政権のために祈祷を行い、政権側にすり寄り、政権側から祈祷所の指定を受  
けることは、寺社の維持・発展のための常套手段〔田中浩司 1998〕

2: 「境内都市」の構造変化—まとめ③「境内都市」の構造

α 身分階層・空間の構成変化

—聖(山上)、俗(山下)の二つの空間構成

権力側の把握では、社務、祠官(社家・別当)、山上中、四郷中、で構成

—15C前半、人的構成の変容

地下侍分・有徳人層らの社家別当家への被官化

地下の侍分（山下神人衆。のち四郷中の主導層）  
有徳人層（土倉・問屋・座頭など）・殿原  
惣奉行・公文所・兼官（別当－三綱につぐ役職）の別当家被官衆(一族)から任用  
惣奉行・公文所・兼官が山上・山下の奉行衆に  
「自治都市」の形成  
郷・町の地縁的都市共同体の成立  
＝諸座神人の座的な祭祀共同体＋職能共同体（商工業座）  
「四郷中」（地下侍分・有徳人層主体）が地下検断権を獲得  
「惣郷」の構成  
「惣郷」＝境内四郷＋外四郷  
「惣町」＝境内四郷（八幡惣町中）

β 社務・山上衆の宗教領主権

＝王権祭祀、社内諸職の任免権、「神役」賦課権、社家警察権、社家刑罰権  
－石清水八幡宮寺の社家(別当祠官家)は「境内都市」の「主人」（戦国期の宗教領主）

〈コメント〉

- ・石清水八幡宮寺「境内都市」（自治都市）の身分・空間構成の整理  
社家別当家・・・善法寺家など  
三綱  
〔郷・町の地縁的都市共同体〕  
惣奉行・公文所・兼官(山上・山下奉行衆)・・・地下侍分・有徳人層（別当家被官）  
「惣郷」＝境内四郷＋外四郷、「惣町」＝境内四郷（八幡惣町中）  
→「四郷中」（地下侍分・有徳人層主体）が地下検断権を獲得  
諸座神人の座的な祭祀共同体＋職能共同体（商工業座）
- ・15C前半の人的構成の変化は、何を意味するのか？別当家の支配強化、被官化した層の発言力の拡大－「境内都市」としての何らの構造変化、主体（共同体成員）？
- ・社家別当家と地下侍分・有徳人層で結ばれた被官関係の内実は？諸座神人らも社家別当家（宮寺）の一種の被官といえるがその相違はあるか？あるいは、有徳人層と商工業座の神人は重なるのが、別の「社会団体」に所属するとみるのか？
- ・宗教領主権の内実について、他の寺社の境内地・門前の進止権、直務の荘園支配との相違点、「境内都市」としての特質はどこに？（例：法隆寺の門前の検断権などの違いは〔細川涼一 1997〕）

3：「境内都市」各層の機能と連帯－まとめ④「位層的な寄合体制」

訴訟をめぐる権限関係

「町中」（寄合衆）－不動産売買・戸口管理

「郷中」－地下裁判

#### 四郷年寄衆－検断

→宮寺奉行衆へ上訴

「宮寺奉行衆」(惣奉行・公文所・兼官)－《寄合談合》→《社家寄合》→社務対決  
社家レベルで裁許不可能な案件

社務→幕府政所→裁許

「郷中」→幕府奉行人へ

「神訴」(幕府への直訴)－下記の多様な上申ルート

社務(石清水八幡宮寺)→幕府

社家(別当祠官家)→幕府

神人衆→幕府

#### 16C

山上宮寺内(社家衆、山上衆、奉行人衆などの寄合)

山下「八幡」(郷中・町中の寄合)(諸座神官神人衆の寄合)

相互の緩やかな一揆・連帯が「境内都市」の実態

〈コメント〉

石清水八幡宮寺の「境内都市」

従来の「自治都市」論との相違点

いくつかの寄合相互の緩やかな一揆・連帯が「境内都市」の実態

いずれかの寄合が突出することなく連帯可能であったその歴史的条件とは？

相互依存か？

#### 4：「境内都市」のアジール性と暴力－まとめ⑤「都市の暴力とアジール」

神人衆・侍衆の暴力－山上・山下の諸寄合衆が自律的に検断沙汰

アジール(避難所・聖域)－権門寺社の権威、公権力からの「不入」で維持

〈コメント〉

石清水八幡宮寺の「境内都市」

従来の「自治都市」論との相違点

いくつかの寄合相互の緩やかな一揆・連帯が「境内都市」の実態

いずれかの寄合が突出することなく連帯可能であったその歴史的条件とは？

相互依存か？

#### 5：「境内都市」と物流－まとめ⑥

いわゆる石清水神人とは

宗教領主「宮寺」社家の被官、宮寺・社家の奉行人、境内都市「八幡」の自治主導層、土倉・問屋、商工業者、廻船業者、伯楽・馬借など

－彼らが、「境内都市」の周辺の衛星都市に所在、京都・奈良・堺ともネット

神人座頭層（問職）は宮寺と個别人身的な関係

－幕府・守護との政治交渉・訴訟制を生業の安全を得る

徳政

石清水でも徳政（分一徳政）は適用。「神物」「頼子」は徳政免除

信長の撰銭令との関係

悪銭と精銭などの交換比率の強制適用、高額取引などの米での支払の禁止など

－石清水でも信長の精銭条々との類似規定存在の可能性を指摘

〈コメント〉

「衛星のごとき都市群」の性格は？そこに所在した石清水神人は、何故他の権門寺社へ従属しなかったのか？あるいは他の寺社の神人でもあったのか？

衛星のごとき都市群に所在した神人座頭層（問職）は宮寺と個别人身的な関係を結び、幕府・守護との政治交渉・訴訟制を生業の安全を得る、とされるが、宮寺は個別の神人が所属する諸寄合（団体）との関係ではなく、個别人身的な関係であったのはなぜか？個别人身的とすると特権・安堵も神人の「集団」ではなく、個別的な関係になるのではないか？

〈総括的なコメント〉

宗教都市の政治社会経済史

中世都市論－自治都市論、「境内都市」

－都市の構造、身分階層とその機能

権門寺社と物流

－その担い手、担い手の配置と中世の物流の構造

参考文献

田中浩司 1998 「寺社と初期室町政権の関係について－祈祷(命令)を中心に、北朝との関係を視野にいれつつ－」（今谷明・高埜利彦編『中近世の宗教と国家』所収、岩田書院）

細川涼一 1997 「戦国時代の法隆寺の門前検断」（同氏『中世寺院の風景』所収、新曜社。初出は1988年）